

やまぐちっ子学力向上だより

第 114 号 R3.9.1
山口県教育庁義務教育課

全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。

今回の調査において、小学校、中学校ともに全体として全国平均と同程度の結果となりました。これは、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら教育活動を進める中で、子どもたちの努力はもちろんのこと、各学校が学びを止めることなく、工夫して授業に取り組んできたことの表れと考えています。

一方で、昨年度はコロナ禍の影響により、全国学力・学習状況調査と県独自調査を活用した年間2回の検証改善サイクルの取組が進められなかったことや、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした家庭・地域との連携による授業改善や補充学習などの取組が十分でなかったことなどが課題として考えられます。

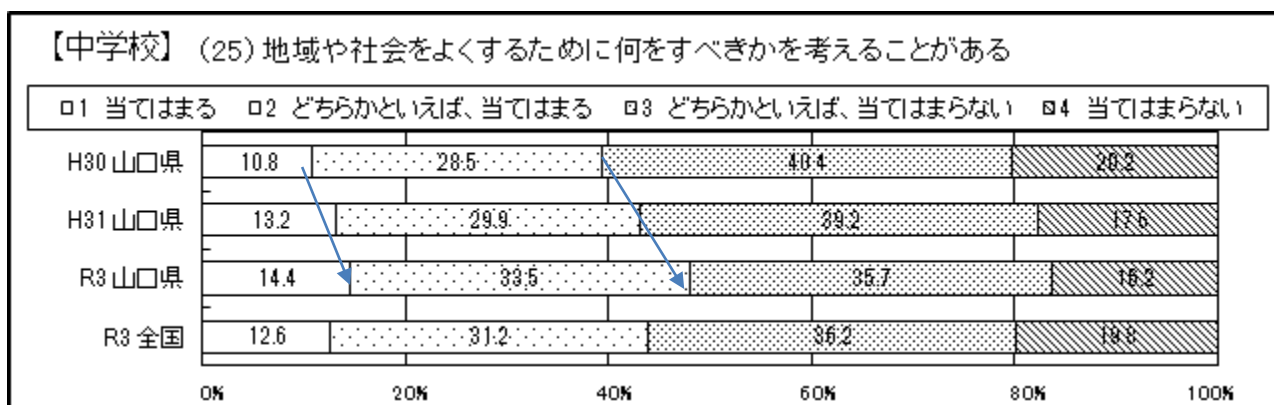
山口県と全国の平均正答数と平均正答率を下にお示しします。平均正答率については、平成29年度から、都道府県等の状況は整数値で、全国の状況は小数第一位までの数値で提供されています。

小学校	平均正答数（問）		平均正答率（％）	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.0/14	9.1/14	64	64.7
算 数	11.1/16	11.2/16	69	70.2

中学校	平均正答数（問）		平均正答率（％）	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.1/14	9.0/14	65	64.6
数 学	9.2/16	9.1/16	58	57.2

質問紙調査についてです。

下の帯グラフは、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」に対する中学生の回答です。山口県の子どもたちは全国と比べて肯定的な回答をしており、その割合は年々増加していることが分かります。



このような、望ましい状況もたくさんありますが、課題の見られる状況もあります。下の表に県内の状況を一部紹介します。各校におかれましては、それぞれのデータを分析し、子どもたちの実態把握の一つとして活用していただければと思います。なお、山口県全体の詳細なデータについて知りたい場合は、国立教育政策研究所のWebページにアップされていますのでご確認ください。（右のQRコード参照）



	望ましい状況	課題の見られる状況
児童生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と協力するのは楽しい。 ○地域や社会をよくするために何をすべきか考える。 ○授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む。 ○授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた。 	<p>[全国より高いものの減少傾向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●将来の夢や目標を持っている。 ●今住んでいる地域の行事に参加している。 <p>[全国より低い]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平日1日当たりの勉強時間。 ●コンピュータやICTを活用した授業の頻度。 ●勉強のためのICT機器の使用時間。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組む。 ○学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりする。 ○授業の中で目標を示し、授業の最後に振り返る活動を計画的に取り入れた。 ○近隣等の学校と教育課程に関する共通の取組を行う。 	<p>[全国より高いものの減少傾向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●データに基づいたPDCAサイクルを確立している。 ●総合的な学習の時間において、探究の過程を意識した指導をする。 <p>[全国より高いものの肯定的回答の割合が低い]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ICT機器を活用して子ども同士がやりとりする場面を取り入れる。

5月に調査を受けた子どもたちに早く結果を提供し、学力の定着・向上に結びつけるために、8月に結果が公表されています。その趣旨を踏まえて、できるだけ早く子どもたちに個人票を配付し、学び直しの充実や指導の工夫・改善に取り組みましょう。

誤答分析から日頃の授業を見直しましょう。

各学校の結果とともに、平均正答率などの統計データが提供されています。そのデータを用いて「どの設問、どの観点で正答率が低いか」に着目して分析を行います。その際に「どのような誤答が多かったか」を確認し、「なぜそのような誤答になったか」を考えることで、日頃の授業の改善点が具体的に見えてきます。

県が作成している「誤答分析の一例」については、右のQRコードから読み取れますので、国が示している報告書の「解答類型と反応率」（右上のQRコード）を確認しながら、全校体制で誤答分析に取り組み、子どもにとってよりよい授業をめざしましょう。

